

英国留学での経験を生かし、明治9年に日本初の冷製ビール工場となる「開拓使麦酒醸造所」を札幌に造った村橋久成。日本近代化の実験場となった開拓使事業に命をかけたにもかかわらず、突如活躍の場から姿を消し、放浪の旅へ。

それから11年後、神戸の道端で病に伏し行旅死亡人として息絶え、壮絶な人生を歩んだ久成。時を経て、世に埋もれていた久成に光をあて、現代に知らせめた一人の男がいた・・・。
今を生きる人たちを通して久成の魅力に迫ります。

まだ誰も、その男の全てを知らない。



薩摩藩英国留学生記念館 令和2年度特別企画展

村橋久成展

HISANARI MURAHASHI

2021 1.23 SAT — 3.29 MON

「これは何か裏がある？」10代の頃に抱いた疑問を
人生を賭けて解き明かそうとする男の歴史でもある。





北海道大学附属図書館 所蔵

日本の青春時代を足早に駆け抜けた男の情熱がドキュメンタリー映像と企画展示で129年の時を経て蘇る。

村橋 久成 1842 - 1892

元治2年(1865年)。江戸時代の終わりに、国禁を破り日本を密出国し、英国へ渡った19人の若きサムライたち。産業・文化・経済、政治や軍事など当時の最先端の技術や情報を学んだ彼らは帰国後、様々な分野で日本の近代化に貢献した。サッポロビールの生みの親として知られる村橋久成もその一人である。薩摩藩主島津家の一門・加治木島津家の分家という由緒ある家柄に生まれた彼は、将来は家老職につき藩を背負って行く地位にあった。帰国後、戊辰戦争では鉄砲隊を率い軍監として従軍。開拓使に出仕した後は、札幌への麦酒醸造所建設を始め、製糸や缶詰、葡萄酒工場など、北海道を舞台にヨーロッパ式の近代産業の振興に奔走した。これほどの男が、突然辞職し、一切の消息を絶ち、11年後の秋、神戸で一人の行路病者として発見された。

一人の作家の愛と執念が村橋久成49年の人生を、令和の時代に蘇らせた。



「残響」田中和夫 著 (昭和58年)

高校時代、札幌時計台内にあった図書館で、偶然手に取った「北海道史人名辞典」。取り出して頁をめくっているうちに、「村橋久成」のところで私の目が止まった。開拓使における彼の業績を紹介した後、終わりに書かれた「退官後は頗る失意の日を送り、帰国の途中病のため死んだ。」とあるのが気になった。今思えば、これが村橋久成を主人公とした小説「残響」のプロローグだった。

小説家・田中和夫／彫刻家・中村晋也
北海道と鹿児島で創作活動が続ける二人の作家の「残響」が響き合う。

没後129年、いまだ鳴り止まない残響に導かれるように。関係者の声を求めて、鹿児島、東京、北海道、村橋ゆかりの地を訪ね、ミステリアスな村橋久成49年の人生に迫ったドキュメンタリー映像。



サッポロビールがあるのは後のおかげですね。



一歩のことを一生懸命にやる。静かな人だったのではないのでしょうか？



故郷にこんな先輩がいた。誇らしく思っています。



一言で言えば清潔潔白！



信念を貫く男！ ちょっと真面目すぎたかな。

決して鳴り止むことのない、残響が聞こえる。



薩摩藩英国留学生記念館
SATSUMA STUDENTS MUSEUM



鹿児島県いちき串木野市羽島4930番地 TEL 0996-35-1865 <http://www.ssmuseum.jp>

【開館時間】10:00～17:00 【休館日】火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)

【観覧料】大人(高校生以上)300円 小人(小・中学生)200円 ※団体割引(20名以上)、障がい者手帳を保有するお客様は一律50円引き



協賛：サッポロビール株式会社

★会期中の毎週土日に『サッポロ生ビール黒ラベル(350ml)』を先着5名様にプレゼント。